

## 令和3年度第3回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

- 1 日時 令和4年1月24日（月）午前9時半～11時半
- 2 開催方法 ZOOM
- 3 委員  
鈴木正嗣（岐阜大学）、江成広斗（山形大学）、山内貴義（岩手大学）、藤本竜輔（農業・食品産業技術総合研究機構）、遠藤三郎（山形県猟友会）、（片桐弘一の代理）松野尚（山形県獣医師会）、秋葉定（山形県農業協同組合中央会）、鈴木康雄（山形市）、（板垣誠弘の代理）金田秀之（最上町）、石黒龍実（米沢市）、（五十嵐修一の代理）小野寺レイナ（鶴岡市）、石山清和（山形県）  
（敬称略）

### （1）山形県第13鳥獣保護管理事業計画（案）について

#### （事務局）

説明

#### 鉛弾について

##### （鈴木正嗣委員）

鉛弾のことが、空気銃の範疇のように見えなくもないので、銃に関して全体にかかるということであれば、新しく項目を起こした方がよいのではないかと。

#### 豚熱について

##### （鈴木正嗣委員）

環境省と農水省が二つの防疫対策の指針をだしているの、それに沿って書いた方がよいのではないかと。

#### 捕獲者の育成及び確保について

##### （鈴木正嗣委員）

計画案には狩猟者の育成及び確保のための対策ということが書いてあり、指針では、狩猟者のみならず捕獲従事者という、言葉になっている。環境省の指針でも大分使われ始めている捕獲従事者という言葉もここに入れて、幅を広く捕獲の担い手を確保するのがよいのではないかと。

#### くくりわなによる二ホンジカ捕獲について

##### （事務局）

シカの侵入状況がより明らかになる、捕獲頭数が増える等の状況になってきて、くくり罠をかけた方がいいという意見があるまで、使用は認めないとし、慎

重に進めていきたい。

(江成委員)

今後5年間で密度が高まりそうな地域が見えてくるので、ある程度柔軟な対応が必要と思う。ただ、今の現段階で全域的にくくりわなを入れるのは、錯誤捕獲を招くだけなので、あまり現実的ではないというのはその通りだと思う。導入の際の基準は、シカの全県的な状況なども踏まえて検討した方がいいのではないか。

(事務局)

錯誤捕獲の実態については、これからどういう仕組みで現場の捕獲従事者から市町村に、市町村から県に報告するか検討していきたい。

#### 計画の実行について

(江成委員)

基本的、全体的なところに異論はない。特定計画の中で順応的管理が今回も示されているので数値目標を出した方がいいと思う。

#### (2) 第4期山形県ツキノワグマ管理計画(案)等について

(事務局)

説明

#### 生息数推定について

(江成委員)

カメラトラップや目視調査の結果からの生息密度に生息域数をかけた生息頭数算出方法は、あまりにもピンポイントな計算要素で科学的なエビデンスからかけ離れている。クマは、絶滅危惧種でもないのにそれにふさわしい全域的な調査が必要である。

#### 防除地域と排除地域について

(江成委員)

計画に具体的に示さないと実行性に欠ける。市町村に作成してもらうのではなく、県で方針を示す必要がある。

#### 春季捕獲のための人材育成について

(鈴木正嗣委員)

人材育成について、春季捕獲に関わるような文言が出てこない。春季捕獲は、狩猟文化という言葉もあり、重要な観点かと思う。人材育成の部分に春季捕獲の位置付けも記載した方がよい。

### 錯誤捕獲について

(江成委員)

捕獲上限数が上回らないように錯誤捕獲の報告がされていない可能性が想定されるので、実態調査の真偽はしっかり確認すべきだというのは以前から伝えてきたところである。

(鈴木正嗣委員)

錯誤捕獲に関する人材育成の件について、単発的な研修ではなく、実務からやり方を習得する方法にしないと身につかないと思う。実現に向けて検討いただきたい。

(事務局)

錯誤捕獲の実態を把握するための調査については、有害捕獲等の部分については市町村で、狩猟については県での情報による。

### (3) 第4期山形県ニホンザル管理計画(案)について

(事務局)

説明

### 目標の進捗状況について

(江成委員)

農業被害額などの目標値を年度ごとに示して、毎年の進捗状況がわかるように記載したほうがよい。しかし、農業被害額は年ごとの振れ幅が大きいので、サル自体の影響、食べ物の豊凶のパターンなどによって被害が変わるし、雪が多く死亡する個体が多いなどでそこだけが減ってしまうかもしれないので、被害額の見方を過去数年分の平均値で見て、その額が減ったか増えたかで判断していくような見方が現実的だと思う。

### 群れ捕獲について

(江成委員)

- ・ 市町村が対応しやすいようにフローチャートを示すとよいと思う。
- ・ 多雪帯の群れ捕獲は、技術的に課題が多いが、冬が最適である。成功及び失敗事例を共有しておいた方がいいのではないかと。県内の群れ捕獲の実績と問題点を、この毎年1回、会議の場で共有して、次の計画に生かすような仕組みを作って、進めたらいいのではないかと。

### (4) 第1期山形県ニホンジカ管理計画の進捗状況について

(事務局)

説明

## 目標やモニタリングについて

### (遠藤委員)

- ・ ニホンジカ試験捕獲事業で、昨年度、胎児が入っていたメスを2頭捕獲。今年には爆発的に増えている。一本角の個体も今回獲った。この結果からなぜこういうことが起きているのかを、考えなければならないと思う。
- ・ ニホンジカは、標高500~700mぐらいの部分に集団で生息している。冬場については水が激しく流れている沢の中に生息している。マツの皮以外はほとんどの樹皮をついばんでいる。

### (江成委員)

- ・ シカの管理計画について、農林業被害抑制の目標のという大まかな指標しかないところでは達成しているようだ。
- ・ 山形県森林研究研修センターで行っているボイストラップの評価調査について、限られた人だけでやるというのは非常に不合理である。メスが定着した段階を押さえて、具体的な個体数がわかるような評価やモニタリングを行い同時に捕獲というシナリオで、当初計画で描いていたはずだが、この状態では対応できないのではないかと。十分な体制を検討していただきたい。
- ・ 米沢市ではかなり数が増えているもう越冬場が形成されているようだ。そういう情報を早めに共有して、翌年の管理計画に生かせるように検討いただきたい。

### (山内委員)

現在密度は非常に低いということで、個体数推定は完全な推定できないと思うが、一気に増える可能性もあるので、全国でやっているような個体数推定をする場合、今から準備をしておいた方が良く思う。

## くくりわなによる捕獲について

### (事務局)

シカの密度がどれぐらいなったらくくりわなを使っていいか、そういう判断ができるのか、できないかなど、そういう基準が必要なのかも含めて検討していきたい。

### (遠藤委員)

メインとなる有害獣を捕獲するに当たり、錯誤捕獲のリスクもある程度理解いただかないと手を引いてしまいかねない。イノシシを獲れ獲れと言われてもその反面、錯誤のことを言われると困る。イノシシのくくりわなにニホンジカがかかった場合、ニホンジカも害獣なので、ある程度は認めながらやっていく必要があると思う。